

TOPICS

金箔をより身近なものに

ー取り扱いやすい金箔シートの開発ー

化学食品部 稲葉 奈月 (いなば なつき)

inaba@irii.jp

専門：高分子化学

一言：金箔の利用促進を支援します。



金箔は石川県を代表する伝統産業のひとつですが、近年では仏壇・仏具の需要減少のため、新たな用途開発が望まれています。しかし、金箔は非常に薄いため、加工が難しいという問題があります。また、食用向けにシート化した金箔もありますが、厚みがあるため、食感に問題があります。

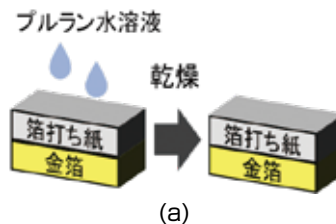
そこで工業試験場ではこうした課題を解決するため、扱いやすい食用およびホビー用の金箔シートの開発に取り組みました。食用では、スピンコーターを用い、プルランを金箔上に均一に塗布することで、食感が良いとされる膜厚約20 μ mの金箔シートを開発しました(図1)。また、ホビー用では、金箔に箔打ち紙を重ね、プルラン水溶液をしみ込ませた後、乾燥させることで一体化した

シートを開発しました(図2(a))。基材の箔打ち紙は金箔シートを対象物に貼り付けた後に水で濡らすことで除去できます(図2(b))。さらに、樹脂などへの貼付だけでなく、陶磁器の上絵付けにも応用可能です。

食用・ホビー用金箔シートどちらも従来の金箔では困難であったハサミによる加工が可能となり、特別な技術がなくても扱えるようになりました。開発した金箔シートにご興味のある方はご相談ください。



図1 食用金箔シートの模式図と外観



(a)



(b)

図2 ホビー用金箔シートの模式図と基材除去の様子